

ほけんだより 9月

令和6年9月12日

青木小学校



2学期が始まってから2週間がたち、小学校では、頭痛やせき、のどの痛みを訴える人、具合が悪く早退する人が少し増えています。コロナウイルスのほかにも様々な感染症が流行っています。せきがなかなかよくなる、体調不良が長引いている、というような場合は、早めに受診をしましょう。以下の感染症は通常出席停止ではありませんが、登校について医師に確認をお願いいたします。

手足口病

手足口病とは、口の中や手、足などにピンク色の発疹が出る病気です。以下に注意点等をお知らせしますので、参考にしていただくようお願いいたします。

手足口病はどうやってうつるの？

手足口病は、コクサッキーウイルス、エンテロウイルスの感染によって起こる病気です。口からウイルスの含まれる飛沫を吸い込む飛沫感染や水疱の内容物を触ることによって感染することもあります。また、感染者の便の中にウイルスが出てくるので、それらが手を介して口に入る接触感染もあります。主に、子どもたちがかかる病気ですが、ときに大人もかかることもあります。しかし、たいいていは特別に治療しなくても自然治癒します。

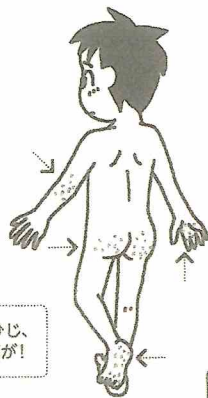
手足口病の症状



舌や喉のまわりに水疱ができて、痛くて食べられなかったり、水が飲みにくくなったりすることもあります。

3～6日の潜伏期の後、手のひら、足のうら、手足の甲、ひじやひざのまわり、おしりなどに淡紅色の細かい発疹や直径2～3mmの水疱ができます。口の中(上あご、歯肉など)にも粘膜疹ができます。37～38℃程度の熱が出ることもありますが、まったく平熱のまま経過することもあります。なお、ウイルスの種類によっては、無菌性髄膜炎や心筋炎や脳炎を合併することがあるため注意が必要です。

手のひら、足のうら、ひじ、ひざ、おしりなどにも水疱が！



手足口病は症状がなくなっても元気になることも…

①



ウイルスは、便の中に出てくるからトイレの後の手洗いが大切！

②

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという細菌の感染による急性の呼吸器感染症です。咳が長く続き(2～4週間)、学校や幼稚園、保育所などで感染がみられます。14歳以下の小児が感染者報告の80%を占めています。

症状

2～3週間の潜伏期間をへて、発熱・頭痛・だるさなどから、次第に咳が目立つようになります。「ずいぶん長く咳が続くけど…」と受診してみるとマイコプラズマの感染であるというケースがあります。

こんなときは医療機関への受診をお勧めします

- 昼間、学校や幼稚園、保育所での生活に支障をきたすほどの咳がみられるとき
- 夜間、咳で眠れないとき
- 乾性の咳が2～3週間続くとき
- 発熱と咳が出るとき

※髄膜炎・髄膜脳炎などの合併症が起こることもあります。



溶連菌感染症

主に3歳から9歳くらいの子どものかかるありふれた疾患です。発熱、のどの痛み、発疹などが出ます。抗菌薬をしっかり服用することが治療のポイントになります。

■病気の基礎知識

A群β溶血性連鎖球菌（溶連菌）の感染による病気です。つばが飛んだりしてうつる飛沫感染です。

診断は特有の咽頭所見と溶連菌の存在ですが、迅速テストがあるので外来ですぐに診断がつきます。1年中見られますが冬、及び春から夏にかけて多い傾向があり、何回もかかることがあります。0歳児や大人でもかかることがあります。

■症状

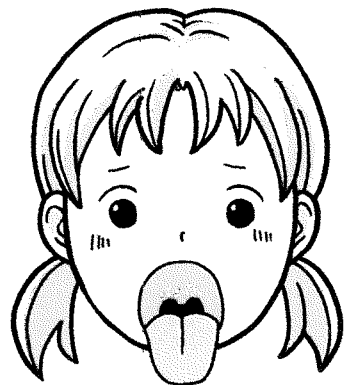
突然の発熱、のどの痛み、咽頭炎、扁桃炎を起こします。熱は微熱のこともあります。

発疹は細かく、体や顔、足先、手先などに出て、かゆみを伴うことがあります。ときに腹痛や嘔吐、頭痛もみられます。

舌の表面がブツブツと赤く隆起（イチゴ舌）したり、首のリンパ節が腫れることもあります。皮膚に感染するととびひになったり肛門皮膚炎の原因になったりします。

受診の目安

- ・のどが痛い
- ・熱がある
- ・発疹が出た
- ・舌が赤くブツブツしている
- ・とびひのような湿疹がある
- ・肛門のまわりがただれている



のどの痛みや舌に赤いブツブツかできます（イチゴ舌）。



園児や児童では発熱から1～2日後に体に発疹が出ることもあります。

